

▼第2次栃木市観光基本計画 進捗確認表(令和7年度)

基本目標5 総合マネージメント		実施スケジュール					内部評価		コメント		
基本施策		単位施策	具体的な方策	R5	R6	R7	R8	R9		進捗	内容(取組状況・課題)
1	全市一丸となった観光プロモーションの推進	各地域の個性ある魅力の積極的な情報発信	ターゲットを捉えた観光情報の発信						一部着手	令和7年度は、「城跡を活用した分科会事業」では、城跡散策デジタルマップの作成に伴い、新たなルート設定ができ、周辺スポットには城や歴史好きが好みそうな施設や、年齢層を意識した施設を選定した。また、若い女性をターゲットとしているのほほん連絡協議会においては、各市で「和×ソースグルメ」の動画を制作し、JRのデジタルサイネージや各市のSNSにて情報発信を行った。	・のほほん連絡協議会は、次年度も継続した活動を予定している。また、次年度から佐野市も加入に向けて調整しており、両毛線沿線自治体での活動が可能となる。
		立地を最大限生かした観光プロモーションの展開	首都圏を中心とした観光PRの実施							着手	令和7年度には、とちまるショップで市内の酒蔵で醸造する地酒の試飲会を2回実施した。また、ソラマチひろばでは「蔵ミュージゼ」や「べらぼう」、大宮駅では横山郷土館のSNSをPRした。3月下旬には日本橋でもPRの実施を予定している。とちまるショップでは「酒蔵見学」、ソラマチでは「蔵ミュージゼを活用したスタンプラリー」の案内、大宮駅では「いちご狩り」を案内した。今後も、PR活動によってどれだけの人が実際に本市へ訪れてくれたのか検証できるような仕掛けをしていく。
2	総合的地域ブランドづくりと観光資源としての活用	総合的ブランドの創設	ブランドづくりに向けた関係事業者との連携体制強化						一部着手	自然の家みかもとかかしの里による宿泊と野球や野菜の収穫体験、ぶどう狩り等ができる事業の検討をしている。引き続き特産品と、歴史・文化、自然、体験などのコンテンツをPRしていくとともに事業者との連携を図っていく。	・ブランド化は必要。特にスイーツ。 ・自然の家みかもやかかしの里での宿泊・野球・収穫体験、ぶどう狩りなどは、沿線客向けの体験型ツアーやファミリー旅行商品の企画に直結する非常に有用な素材です。特産品や歴史・文化、自然体験との組み合わせは、当社として商品造成の幅を広げることができます。一方で、現状では予約連動や送客連動の仕組みが明確でないため、事業者との連携強化によるツアー化・販売導線の整備が今後の課題です。
		特産品等の総合プロモーションの展開	関連計画等所管部署との連携体制強化							着手	観光イベントに農産物やプロスポーツのPRブースを出展したり、農業関係やスポーツ関係のイベントにて観光PRを行うなど各所管部署と連携し栃木市の魅力向上を図っている。令和7年度は、観光振興課、渡良瀬遊水地課及び農業振興課が連携し、栃木市・渡良瀬バレーンレース、渡良瀬遊水地フェスティバル及びオーガニックマルシェを同時開催し、観光、自然及び農産物で連携し栃木市のPRを行った。また、観光振興課及び農業振興課が連携し、北千住駅でぶどうのPRと共にぶどう狩り等の栃木市の観光PRを行った。ほかにスポーツ課と観光振興課で連携し、J2に昇格した栃木シティが参加する、百年構想リーグのホームゲームで市内観光に誘導するための観光PRブースを出展した。
3	観光資源・施策等の適切な管理・取組の継続	顧客満足度の把握と問題点等の分析・反映	観光動態調査の実施						一部着手	来訪者の興味・関心の把握や宣伝方法を改善するため、イベント開催時に来場者アンケートを実施している。また、それぞれのアンケート結果を集約し、分析結果を観光協会と共有していく。なお、次回計画策定のため、令和8年度に市内外への調査、令和9年度に市への観光客への調査を実施予定している。	・アンケート実施はとても良いと思います。
		クレームや意見等の一元管理	集約したクレームや意見等の情報共有システムの構築							着手	クレームや意見等をデータ化し、観光協会や当該施設と共有し、改善に活かしていく。
4	観光アドバイザーの活用	専門的人材の活用	観光アドバイザーによる研修実施						着手	産官学連携の活動の中で、市内観光事業者や空き物件所有者向けに研究報告会を開催した。令和8年度以降も産官学連携で築いた繋がりを大切に、専門的人材の意見を取り入れる。	・栃木市、國學院大学観光まちづくり学部、東武鉄道、当社(東武トップツアーズ)での4者共同研究による持続可能な「観光まちづくり」における3か年の事業が終了し、蔵の利活用を中心とした様々な見地からの提言が生まれました。研究発表報告の内容を広く展開いただき、ぜひ今後の栃木市の観光施策に役立てていただきたいと思います。 ・移住体験施設「やどかりの家」のように利活用できる空き家は多くあると思います。
		大学との連携	関連大学との連携体制の強化							着手	「持続可能な観光まちづくり」に関する協定を締結している國學院大学や、栃木の実情をよく知る宇都宮大学と、市の課題を研究テーマに対し連携し取り組んでいく。観光協会が観光庁の補助金を活用し実施したモニターツアーに國學院大学と協力した。
5	脱炭素化の取組	エコツーリズムの推進	エコツーリズムメニューの開発・実施						着手	出流の自然体験するコンテンツ(滝行や座禅等)の調査を実施し、今後のメニュー化に向けた研究を行った。	
		脱炭素化に対する意識の醸成	脱炭素化に向けた研修の実施							一部着手	市民団体や事業者の会議開催時に講師を派遣し、脱炭素化に向けた講習会を開催している。また、栃木市出前講座の中で環境講座を開催している。その他に各イベントにてPRブースを設置し、普及促進を図っている。
6	デジタル技術の活用	デジタル技術を活用したデータの管理	栃木市観光資源データベース「蔵ナビ!」を活用したデータの管理						一部着手	「蔵ナビ!」に送られる施設にかかる意見を確認し、観光協会等と共有することに留まっている。今後は、関係施設と連携し、情報更新の頻度をあげるように努める。	・蔵ナビ!に寄せられる施設への意見を確認・共有している取り組みは、観光施設の改善やサービス向上につながる基礎的施策として評価できます。当社としても、こうした情報はツアー造成時の受入環境の把握や商品企画の参考素材として有用です。一方で、現状では情報更新や施設改善のスピードが限定的で、旅行商品への即時反映や送客への連動には課題があるため、関係施設との連携強化による更新頻度向上と商品化への反映が今後の課題です。
		デジタル技術を活用した観光情報の発信	ホームページ、観光関連サイト、アプリの内容の充実							一部着手	観光情報について、本市の公式ホームページや公式SNSで情報発信を行った。栃木市散策ガイドアプリ「蔵ミュージゼ」を活用し、計3回スタンプラリーを実施した。また、インフルエンサーを招請し市内の観光についてInstagramやYouTubeにて情報発信を行った。